

令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ⑥障がいのある子どもの理解

- ◆ 障害のある子どもを育てる保護者にとって、成長の過程の中で訪れる悩みは多いと感じます。その中の状況や支援の内容が時には子育ての支えとなったり、援助の方法を見つけるヒントになったりします。家庭・学校・放課後児童クラブが連携することは子どもを多面的に知ることに繋がり、支援をする上で共通の目的や方法をもてるのではないかと思いました。障害のある子どもの権利をしっかりと認め、平等で安心した生活を送ることができるよう、プライバシーの保護を前提に専門の機関と相談できる体制があることを知りました。
- ◆ 今まで障害をもった子どもの相手をしてきましたが、表面的な知識でしか対応できていなかったと反省しました。その子としっかり向き合い、安心して過ごしてもらうには、正しく深い知識をもち、職員や周りの子どもとも協力していかなければならないと思いました。教える時や伝える時に絵を使ったり、細かく指定してみたりなど、効果的な手法に関する為になる話を色々教えてもらえたので、その子に合った方法を試して、手助けできるようにしていきたいです。
- ◆ 特別支援学校では、あそび・生活単元学習・作業学習などの体験的な学びがあることが分かりました。視覚障害の見え方は、単に見えないだけでなく、視野が狭かったりと色々な種類があると理解できました。知的障害にはイラストを上手に活用していくことが大切で、伝わる経験を重ねることが意欲にも繋がると分かりました。支援のために、まずは子どもを理解することが重要だと知りました。
- ◆ 今回の研修内容は、今後障害をもった子どもと関わるがあったときに、とても役立つと感じました。特に対応や言葉のかけ方を知ることができ、自分にとっての新たな気づきや学びに繋げることができました。自分の思いを上手く言葉で表現できない子どもに対して、子どもが訴えたいことをいち早く理解し、安心できるように対応し、その子が少しでも自分の思いを言葉にしようと思えるような子どもの成長を促せる関わりが大切だと分かりました。
- ◆ 発達障害にはいくつか種類があり、支援する上で子どもの困っていることを知るためには障害の特性とそのことが原因で起きてしまう困難さについて幅広い知識をもつことがとても重要なことだと学びました。障害のそれぞれの特性を知ることによって子どもの困った感を減らし、できることを増やすことができると感じました。子どもができる体験をたくさん経験して、自分に自信をもてるように配慮していこうと思いました。